

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 薬学部 医療薬学科
名 前 加藤裕久

作成日 令和5年9月26日

1. 教育の責任

令和3年度より、薬学部1学年「早期臨床体験実習(必修)」(添付資料#1)に実務経験のある教員として担当している。病院ならびに介護施設での見学付添いと発表会での評価を行っている。2学年「医療薬学チュートリアル I (必修)」(添付資料#2)演習では、実務経験のある教員として担当している。SGD(small group discussion)でのファシリテート、発表会での評価そしてレポートの評価を担当している。3学年「薬学総合プレ研究(必修)」(添付資料#3)実習では学生の研究指導ならびに評価を担当している。

また、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻2学年「臨床薬理学(必修2単位)」(添付資料#4)講義の科目責任者として全講義 15 回(90 分/回)を担当し、履修状況を試験にて評価している。

大学院保健医療学研究科保健医療学専攻1学年「臨床薬理学(選択)」(添付資料#5)講義と1学年「がん看護学特論 V (選択)」(添付資料#6)講義を担当している。

薬学部内での教育活動として、教授会、入試試験委員会、学生支援委員会、地域連携推進室会議、OSCE 委員会、実務実習委員会(病院実習担当)、薬学部オープンキャンパス運営、2・3学年のチューターを担当し、教育活動の円滑な運営に努めている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は、31 年間国立病院の薬剤師として臨床薬剤業務に携わり、特にがん領域での専門性を追求してきました。日本医療薬学会認定の「がん指導薬剤師」の資格を取得しています。患者さんに寄り添うことを信条に病院薬剤師業務に励んでいました。その後、昭和大学薬学部の医薬品情報学研究室を担当することとなり、薬学部学生の教育と研究の指導を 13 年間行った後、湘南医療大学薬学部医療薬学科の医薬品情報解析学研究室で勤務しています。がん領域の病院薬剤師としての経験と大学での教員としての経験を生かしながら、学生の教育と研究の指導を進めています。本学での私の理念は、①医療現場で「活躍する薬剤師」の養成、②基本薬剤師業務の修得、③チーム医療の実践、④専門性発揮の準備になります。これらを実現させ、適切な医療と科学へ積極的に貢献する薬剤師の育成を目指します。湘南医療大学の薬学部生には、薬学的知識や技能はもちろん、医療従事者らとのチームワークを醸成し、患者さんや医療従事者らとの高いコミュニケーション能力を身につけてもらうことを大いに期待しています。

2) 理念をもつに至った背景

上記理念を有するようになった背景は、病院薬剤師として他の医療従事者らとのチーム医療をどのようにすれば実践することができるかについて、常に思考していたからです。医療現場では、特に病院では患者さんのために医師、看護師、栄養士らと

ともに最善の治療を目指して多職種でチームを組み、協議し実践します。薬の専門家である薬剤師としてチームに貢献するためには、より深い医薬品に関する知識と治療研究能力が求められます。従来の治療法では効果が得られない場合は、新たな治療法を開発するための臨床試験を実施する必要性もあります。臨床試験を実施するための臨床的疑問の発案とその解決能力を身につける必要があります。そのため、学位(薬学)を取得し研究能力を高めました。また、チーム医療を実践するためには、患者さんや他の医療従事者らとの信頼関係を構築しなければなりません。そのためのコミュニケーション能力は必須のものです。相手の考えを尊重しながら、意見の妥協点を見出してきました。これは、大学で教員となってからも変わることはありませんでした。今後も専門性を高めながらコミュニケーションをとっていきたいと考えています。

3. 教育の方法・戦略

学生にとってわかりやすい講義と講義内容に興味を引く話題を盛り込むことを心掛けている。そのために、科目に関連する最新の知見や話題などを幅広く入手するよう努めている。特に情報源となるものとしては、新聞記事、ニュース、雑誌、インターネット情報、国家試験問題などを活用している。

教授方法について:

- ・科目指定教科書のフル活用

教科書を有効に使うことが、学生自身による自己学習では重要と考える。特に復習の際には教科書で確認することを学生に強く勧めている。そして、試験問題の範囲に必ず教科書からの問題も含めている。

- ・国家試験問題の例示

講義の單元ごとに国家試験問題を例示し、知識の確認と将来の国家試験受験に向けたモチベーションを高めさせている。

講義の工夫について:

- ・講義のポイントを記載したパワーポイントスライドを資料として配布している。その際、教科書で該当するページ数をスライド内に記入し、教科書での確認に役立てている。

- ・講義中に学生からの質問時間を設け、質問に回答している。講義終了後も、学生からの質問に対応している。その際、学生の理解度が低いと考えられた場合は、次の講義で再度わかりやすく説明している。

講義以外の諸活動について:

- ・講義に関連する知識を深めるため、多くのインターネットセミナーなどを受講している。

- ・学会の部会の委員として参加し、専門領域の薬物治療の適正使用に努めている。例として、日本癌治療学会 G-CSF(顆粒球コロニー形成刺激因子)適正使用ガイドライン 2022年10月改訂 第2版のワーキンググループ(添付資料#7)に参加し、ガイドラインの

作成に関わった。

自己研鑽について：

医療薬学の専門性を高めるため、日本医療薬学会認定 がん指導薬剤師(添付資料#8)、日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) 認定 スポーツファーマシスト(添付資料#9)の資格を取得し、取得した認定資格を更新している。

4. 学習成果

学生からの講義評価として次のようなことを指摘された。

- ・わかりやすい講義であった。
- ・スライドがきれいで見やすかった。
- ・講義内容に興味を持てるようになった。
- ・教科書を読むようになった。
- ・国家試験を意識するようになった。など

また、定期試験で再試験となった学生には個別指導を行い、多くの学生の学習意欲が高まり、再試験では高得点を取った。

そして、担当した講義に関する学会発表では、共同研究者として発表した。

- ・定本 清美、中楯 奨、市丸 嘉、加賀谷 肇、片川 和明、加藤 紘一、加藤 裕久、佐野 和美、須藤 遥、殿山 泰弘、石橋 芳雄、鈴木 勉：薬学部初年度教育に必要な要素—学生のニーズと教員の対応—、日本薬学会 143 年会、2023 年 3 月(添付資料#10)
- ・寺島朝子、佐野和美、加藤裕久、定本清美、塩田清二、若山恵、古屋博行、山崎泰広、市丸嘉、加藤紘一、進藤綾大、須藤遥、殿山泰弘、石橋芳雄、加賀谷肇、鈴木勉：チーム医療の実践に向けた低学年向けチュートリアル演習の構築、第 7 回日本薬学教育学会大会、2022 年 8 月(添付資料#11)

5. 改善のための努力

- ・再試験受験者数の減少

定期試験で履修合格できるように講義内容をよりわかりやすくするように努める。講義内容を確実に理解してもらうために、講義中に学生に教員から質問し、各学生の理解度を確認しながら講義を進めるよう努める。

- ・各講義の理解度の確認

講義中に小テスト問題を果し、講義内容の理解度を確認する。

- ・最終講義では、講義全体のポイント解説を実施して、学生の自己学習の一助とする。そして、練習問題を取り組ませ、出題のポイントを解説する。

6. 今後の目標

私の今後の教育の目標としては、以下の通りである。

短期目標：

令和6年度開講する薬学部4年次後期「医薬品情報学（必修科目）2単位」（添付資料#12）の教科書選定、教材の作成に努める。達成時期は令和5年度内とする。

令和7年実施する「病院実務実習」（添付資料#13）の科目責任者として、実務実習センターの教員らと協働し円滑な実習の運営を実施するため、関係部署との協議を進める。達成時期は令和5年度内とする。

長期目標：

学生が薬剤師国家試験に全員合格するよう支援する。そして、研究室所属学生が学会等で発表できるよう精力的に研究指導する。

【添付資料】

添付資料#1(早期臨床体験実習)

添付資料#2(医療薬学チュートリアルⅠ)

添付資料#3(薬学総合プレ研究)

添付資料#4(臨床薬理学)

添付資料#5(臨床薬理学)

添付資料#6(がん看護学特論Ⅴ)

添付資料#7(G-CSF(顆粒球コロニー形成刺激因子)適正使用ガイドライン 2022年10月改訂 第2版のワーキンググループ)

添付資料#8(がん指導薬剤師)

添付資料#9(スポーツファーマシスト)

添付資料#10(薬学部初年度教育に必要な要素—学生のニーズと教員の対応—)

添付資料#11(チーム医療の実践に向けた低学年向けチュートリアル演習の構築)

添付資料#12(医薬品情報学)

添付資料#13(病院実務実習)